



小学生・中学生の皆さんへ

2018年[平成30年]

6.20

No.117

発行：荒川区  
発行部数：23,000部  
〒116-8501  
荒川区荒川2-2-3  
☎(3802)3111

あらかわ区報Jr.は  
荒川区ホームページで  
ご覧になれます

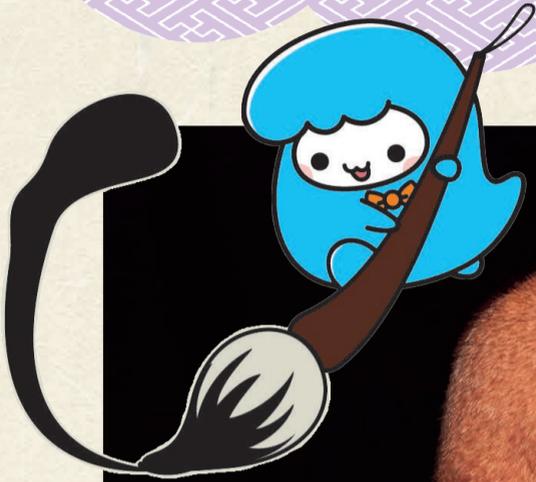
<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html>



# あらかわ区報 Jr.

ARAKAWA KUHO JUNIOR

ジュニア



ジュニア  
記者が

橘

たちばな

右

う

橘

たちばな

橘流寄席文字家元直門

弟

師

子

匠

体

入

に

験

り

!



荒川区の

伝統技術を守る

▲「橘流寄席文字」「歌舞伎文字勘亭流」「根岸流相撲字」 橘右橘師匠

落語などを上演する演芸場を「寄席」といい、そこで使われる出演者の名前を書いた「めくり」や看板、プログラムを意味する「番組」の文字を書くのが右橘師匠の仕事だよ。寄席文字は右橘師匠の師匠である橘右近さんが江戸時代からの呼び名を改め、橘流として確立した書体で、古くから伝わる江戸文字のひとつなんだ。



荒川区で寄席文字の文化を守り続ける職人・橘右橘師匠に、ジュニア記者が1日弟子入り体験！  
寄席文字を美しく書くコツを教えてくださいました。

問い合わせ 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

次は7月に発行する予定です

# 寄席文字

よせもじ

## 書いてみよう!

見て美しく、書いて楽しい。

江戸文字には「橋流寄席文字」のほかに「歌舞伎文字勤亭流」、「根岸流相撲字」があり、提灯や干社札に使われる文字も「江戸文字」と呼ばれています。今回は、諏訪台中学校3年生のジュニア記者が通っている中学校の名前から「すわだい」の文字を書くことになりました。さて、ジュニア記者の腕前は？



### 橘右橋師匠を紹介

1952年、台東区生まれ。本名・中村泰士。1971年、橋流寄席文字家元・橘右近に師事。2003年、荒川区登録無形文化財(寄席文字・勤亭流文字・江戸文字)となる。現在は鈴木演芸場、国立劇場などで筆耕を務める。著書に『図説/江戸文字入門』(河出書房新社)がある。荒川区伝統工芸技術保存会役員。



### 寄席文字を知ろう

まずは見学!

- ①まずはお手本として右橋師匠がジュニア記者の名前を寄席文字で書いてくれました
- ②③初めて寄席文字を見たジュニア記者。すらすらと動く右橋師匠の筆を見て、「難しそうだけどやってみよう!」と興味津々です

習字とは全然違うね  
同じ筆を使って書く文字でも、学校でやる

ひとつひとつの文字に思いを込めて

寄席文字はひとつのマス目を客席に見立てて書きます。この書き方(筆の運び方)について右橋師匠は、「お客さんがたくさん入るよう黒々と肉厚に、できるだけ空間を埋める。尻上がりに客足が延びるようにという願いを込めて右上がりに。大きなハネは習字のように跳ね上げないで逆から持ってきて、客足を内へ込める。寄席文字は縁起を担いだ文字なんですよ」と教えてくれました。

磯谷徳仁くん

### 寄席文字、上手に書けるかな

そして体験!

文字を書くより、絵を描く感覚で

いよいよ寄席文字の体験。飛田さんが「す」、小林くんが「わ」、川田さんが「だ」、磯谷くんが「い」を担当することに。右橋師匠のお手本を見ながら、自分が担当する文字をひたすら練習! 美しく書くコツは「教えられた通りに筆を動かすこと。文字ではなく、絵を描くつもりでやってみよう」と右橋師匠。習字では筆を縦に持つと習いますが、寄席文字は鉛筆と同じように筆を持ちます。

- ①筆をひねりながら側面を使って線を書きます。紙を押さえると筆が立ってくるので、紙を動かしながら書けるよう文鎮は使いません
- ②③習字の筆の持ち方に慣れているジュニア記者は苦戦していましたが、だんだんと書けるようになります。あっという間に練習の時間は終わり、緊張しながらも清書します

おもしろい!  
筆の持ち方、角度、ひねり方が独特で

小林知生くん

### 上手に書けました!

ジュニア記者が書いた文字を並べると「すわだい」に。寄席文字は漢字よりもひらがなの方が難しいそうです

右橋師匠が書いたお手本

体験を終えたジュニア記者たちは「寄席文字は難しかったけど、勉強になりました!」と、達成感いっぱいの清々しい表情でした。「書いているうちに形になってきたね。みんな頑張りました」と右橋師匠に褒められました。

納得のいく文字が書けました  
何度も練習して

飛田咲和さん

### 右橋師匠の作品はどちらです!

荒川区伝統工芸技術保存会の半てんの文字も!

上野にある鈴木演芸場の番組に使われる「木札 落語家「志ん生」師匠の名前を特別に書いた作品

川田真央さん

▲荒川ふるさと文化館1階伝統工芸ギャラリー  
一日除幕の文字は右橋師匠の作品だよ

### 伝統技術をどう守る?

「技術だけを教える意味がない、仕事として受け継ぐのが基本」と右橋師匠。右橋師匠の技術と仕事は、弟子の橘さつき(銘刈由佳)さんが受け継いでいます。

▲「荒川の匠育成事業」の修了生の銘刈由佳さん

### 第39回 あらかわの伝統技術展のご案内

荒川区在住の伝統工芸技術保持者を中心に、伝統工芸技術や手作りの素晴らしさを紹介します。

日時: 7月6日(金)~8日(日)  
午前10時~午後5時

会場: 荒川総合スポーツセンター

入場料: 無料(体験コーナーなど一部有料のイベントもあります)

Topics

みなみせんじゅとしょうかん  
南千住図書館・  
あらかわ 荒川ふるさと文化館  
たなばた 七夕まつり

たなばた 七夕の歴史を知ろう&  
たなばたかざり 七夕飾り作りを体験しよう

たなばた 七夕の歴史や由来についてのパネル  
を展示します。期間中、七夕飾り作り  
も行います。

期間 6月29日(金)~7月11日(水)  
会場 荒川ふるさと文化館1階

エントランス  
費用 無料

七夕まつり

七夕まつり 七夕まつりのお話や、パネルシア  
ターを行います。短冊に願い事を書いて  
笹に飾ります。

日時 7月4日(水)午後3時30分~  
4時30分

会場 荒川ふるさと文化館地下1階  
視聴覚室

対象 小学生以下50人(先着順、未就  
学児は保護者同伴)

費用 無料

申込方法 直接会場へお越しください

問合せ 南千住図書館 ☎(3807)9221  
荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



第10回  
あらかわバラの市を開催

5月19日、第10回あらかわバラの  
市が開催されました。今年は節目の年  
であることから、都電町屋駅前周辺  
の会場に加え、「ゆいの森あらかわ」に  
隣接する芝生広場の2ヶ所で開催。

当日は、4300鉢のバラが販売され、  
多くの人々が色とりどりのバラを楽しん  
でいました。



▲あいさつをする西川区長

なりたい自分になる!  
「漫画家」  
になるために!

しやうらいのゆめ  
将来の夢  
インタビュー  
第2回

TVアニメ「あやかしお宿に嫁入りします。」  
コミック版を連載中の漫画家、  
衣丘わこさんが登場!

漫画家になりたいと思ったのは、いつごろですか?

4、5歳くらいから、父が持っていた漫画を読んだり絵を描  
いたりするのが大好きで、仏像の写真集を見て模写すること  
にもハマってましたね(笑)。思えば、幼いころから「将来漫画  
家になろう」と思う環境ができていたんだと思います。いつの  
間にか、ごく当たり前に漫画を描き始めていました。

漫画家になってうれしかったことはありますか?

うれしかったのは、自分の好きなことを仕事にできたことで  
す。漫画家になるまでは他の仕事も経験しました。それが作  
品を作るうえでの大事な糧にはなりましたが、「何があっても  
頑張ろう!」と心から思えた仕事は、やはり漫画家でした。

漫画家を目指す人たちにアドバイスををお願いします。

まずは、デジタルツールを使いこなしてパソコンで絵を描け  
るようになることが近道でしょうか。デビューするには出版社  
に投稿や持ち込みをするという方法以外に、イベントやSNS  
などで、自分の絵や漫画を発表できる場所をつくっておくこと  
も大事です。どこで編集さんの目にとまるかわからないので、  
発表できる場があれば、どんどん活用していきましょう。そし  
て、私が心がけていることは「継続は力なり」です。これが一番  
です!

衣丘わこさん

5月20日生まれ。大阪府出身。漫画家・イラストレーターとして活躍しており、代表作は『銀盤男子』全2巻(KADOKAWA)など。現在、『あやかしお宿に嫁入りします。』を連載中。

応援message

好きこそものの上手なれず!  
衣丘わこ

あらかわ  
今昔ものがたり  
日 [あらかわの歴史と伝説]

執筆/ 荒川ふるさと文化館 館長  
野尻館長

その117 職人よもやま話⑪  
涼しさを作る扇子職人

今年も夏が近づいてきたね。東京の夏はと  
にかく暑い。夏を乗り切るには、お部屋のクー  
ー、扇風機、冷蔵庫など電化製品が欠かせない  
よね。

便利な電化製品はもちろん必要だけど、東  
京の夏を凌ぐための昔からの知恵があるよね。  
何々、電気を使わない環境にやさしい方法があ  
るって。どんな方法かな? 朝、道に水を撒く  
打ち水、日陰を作るための葭簀・緑のカーテ  
ン。そう良く知っているね。学校の授業で習っ  
たのかな。

伝統のクールビズ

ところで、日本の夏の過ごし方には、昔から  
涼しさを装い、楽しむという考えがあるんだ  
よ。例えば、花火大会には、朝顔や金魚、撫子  
など夏らしい柄の浴衣に、下駄を履いてお出か  
けをする。その時、身に付けるのが、涼しい風  
を送ってくれる団扇や扇子なんだ。今の言葉で  
言えば伝統のクールビズだね。

わざとデザインでより涼しく

扇子はね、東京の伝統工芸品の一つなんだ。  
京都の「京扇子」と区別するため「江戸扇子」と  
呼ばれている。何と、あらかわには5代にわた  
って、扇子作りをしている職人さんがいるんだ  
よ。扇子作りには、約30の行程があるんだ。  
扇面という扇型の紙を折り畳んだり、竹ででき  
た扇骨という棒を差し込んで取り付けたり、す  
べてを一人でこなす。時間をかけて一つずつ丁  
寧に作るんだって。すごいね。

それに扇子のデザインも、とても大切にしてい  
るんだよ。職人さんにこだわりの夏らしい文  
様を聞いたら、「三社網」「水割」「とんぼ」「絞  
小紋」なんかを教えてくださいましたよ。

7月6日(金)~8日(日)は「あらかわの伝統

技術展」(会場、荒  
川総合スポーツセン  
ター)。扇子の他に  
も夏らしい伝統工芸  
品を作る職人さんが  
出演するよ。みんな  
で見に来てね。



【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234